

第3章

歴史文化を活かしたまちづくりの方向性



市街地付近の様子

3－1 歴史文化を活かしたまちづくりの目標

笠岡市では、これまで市として歴史文化遺産の調査や保存、活用に関わる事業を行ってきた。(詳細は95～97ページ)。一方で、地区ごとに地元の歴史を調べたり、歴史文化遺産を保存・活用するなどの取組が行われ、歴史文化遺産の継承に、地域住民が積極的な担い手として関わってきた。(詳細は91～94ページ)。例えば、古墳群や遺跡における草刈りや、小中学生への伝統芸能の伝承活動、郷土史や文化財に関する冊子の刊行などがある。

しかし、担い手となる地域住民は、少子高齢化や人口減少、そして社会的な変化などがあいまって減少傾向にある。そのため伝統行事、景観や自然環境を良好な状態で維持することが困難になるなど、これまで大切に受け継がれてきた歴史文化遺産の存続が危ぶまれる事態も発生している。

歴史文化遺産は、地域のアイデンティティや誇りであり、住民同士の心をつなぐ紐帶にもなっている。また一方で、笠岡市を象徴するものとして、観光や地域振興、教育などにも活用されてきた。地域の人たちにとって、地域の魅力を発信し、地域を盛り上げていく材料となる歴史文化遺産は、豊かな生活を送る上で必要不可欠な財産である。笠岡市の歴史文化の価値の一つは、担い手たちが歴史文化遺産に愛着を持ち、継承や活用の取組に主体的に関わっていることにある。歴史文化遺産をとり囲む地域の人たちもまた、本市の財産である。

本構想は、市と市民の皆さんとが連携して、地域住民が支える歴史文化遺産の保存・継承・活用の取組を支援し、各地域の特色ある取組や歴史文化遺産が、総体としてさらに笠岡市の魅力を引き出し、活力を向上させることを目標とする。

■歴史文化を活かしたまちづくりの目標

笠岡の歴史文化の継承を通じた

歴史文化遺産の活用による魅力と活力の向上

3－2 歴史文化を活かしたまちづくりの方針

「笠岡の歴史文化の継承を通じた歴史文化遺産の活用による魅力と活力の向上」を実現するための方針として、以下の3つの基本方針を定め、取組を推進する。

■歴史文化を活かしたまちづくりの方針

基本方針1：歴史文化を守り、育て、伝える（歴史文化遺産の保存・継承）

基本方針2：歴史文化を効果的に活かす（歴史文化遺産の活用）

基本方針3：歴史文化を守り、育み、活かすための基盤をつくる

（歴史文化遺産を保存・継承、活用する仕組みづくり）

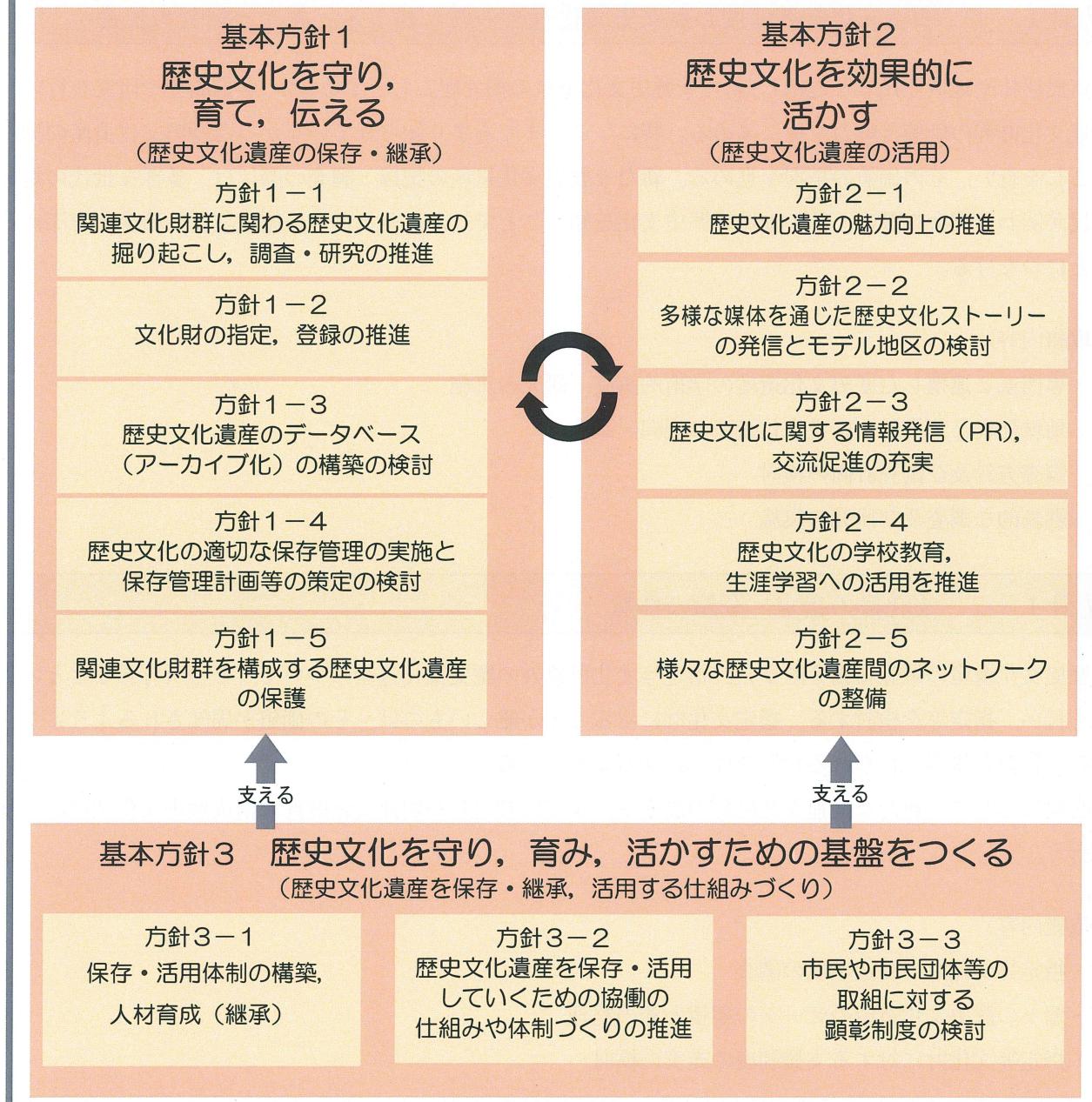
基本方針1の「歴史文化を守り、育て、伝える」では、歴史文化遺産の『保存と継承』の視点から、5つの具体方針を設定する。基本方針2の「歴史文化を効果的に活かす」では、歴史文化遺産の『活用』の視点から、5つの具体方針を設定する。基本方針3の「歴史文化を守り、育み、活かすための基盤を

つくる」では、『歴史文化遺産を保存・継承、活用する仕組みづくり』の視点から、3つの具体方針を設定する。

目標と方針の関係は下図のとおりとし、次ページ以降にそれぞれの方針の内容を示す。

■歴史文化を活かしたまちづくりの目標と3つの基本方針との関連図

方針



目標

笠岡の歴史文化の継承を通じた
歴史文化遺産の活用による魅力と活力の向上

基本方針 1

歴史文化を守り、育て、伝える（歴史文化遺産の保存・継承に関する基本方針）

笠岡市内の歴史文化や歴史文化遺産の特徴や価値を的確に把握し、関連文化財群（113～116ページ参照）を設定し、それに関わる歴史文化遺産の価値が損なわれないように適切に守り、継承していく。さらに、地域ぐるみで歴史文化を守り育て、歴史文化が身近に感じられる環境の構築を目指す。

方針1－1 関連文化財群に関わる歴史文化遺産の掘り起こし、調査・研究の推進

市民団体や地域住民等と連携し、新たな歴史文化遺産の掘り起こしをするほか、学術調査や研究を行い、関連文化財群の価値と魅力を更に高める。特に、これまであまり知られていなかった歴史文化遺産の掘り起こしを行い、その価値の把握を進める。新たな歴史文化遺産の把握・調査の際には、多様な世代の地域住民が関わる機会を設け、その地域の歴史文化を知ることで、ふるさととその歴史文化への愛着を深めることにつなげる。

〈取組内容〉

- ・専門家と連携した歴史文化遺産の学術的調査・研究の実施
- ・地域住民と連携した歴史文化遺産の把握・調査
- ・調査方針及び調査計画の検討
- ・継続的な調査及び研究の実施

方針1－2 文化財の指定、登録の推進

歴史文化遺産の調査結果を踏まえ、指定等文化財以外の歴史文化遺産について、その所有者などとの調整を行い、指定等を検討する。指定文化財にすることが難しいものは、その価値が周知されるようにし、保存や管理が適切に行われる状況を作りだせるようにする。

必要に応じて、新たな関連文化財群の設定や、すでに設定した関連文化財群に構成歴史文化遺産の追加も行う。

〈取組内容〉

- ・指定等文化財の周辺環境の調査
- ・個々の歴史文化遺産のデータの蓄積とその整理
- ・指定等文化財に対する支援制度の充実の検討

方針1－3 歴史文化遺産のデータベース(アーカイブ化)の構築の検討

これまでに実施してきた調査及び本構想策定にあたって実施した調査によって把握した歴史文化遺産の情報をデータベースにし、歴史文化遺産の内容を分かりやすく整理する。また、そうした情報のアーカイブ化を進め、歴史文化遺産を効果的に保存・管理する。

多くの人に活用してもらえるようなシステムの構築を検討し、データベースやアーカイブ化によって、市内外の人に笠岡市の歴史文化の情報を集める場を提供する。また、歴史文化を活用して取組を行っている団体や個人の活動(歴史ウォークや講演会など)や関連する情報もデータベースに反映させる。活動を行っている団体が自分たちでデータベースに情報を更新したり付加したりできるような仕組み作りを検討する。

〈取組内容〉

- ・データベース及びアーカイブ構築に必要な歴史文化遺産に関する情報整理方法の検討
- ・データベース及びアーカイブ化のシステムの検討
- ・データベース及びアーカイブの運用方法の検討

方針1－4 歴史文化の適切な保存管理の実施と保存管理計画等の策定の検討

個々の歴史文化遺産に関する調査・研究、文化財への指定等を計画的に実行するために、歴史文化遺産の「保存管理計画」等の策定を検討する。また、関連文化財群の計画的な保存・活用の推進も検討する。

また、市民の歴史文化遺産に対する防災意識を高め、歴史文化遺産を災害から守るために、文化財の防災・防犯について知る機会を設けることを検討する。さらに地域ごとにある自主防災組織などと、歴史文化遺産防災の連携推進を図る。

〈取組内容〉

- ・基本方針に沿った保存管理計画等の策定を検討
- ・指定等文化財及び関連文化財群の計画的な保存と活用を推進
- ・歴史文化遺産の防犯と防災に関する取組の推進
- ・文化財所有者のための防災推進マニュアル(岡山県)に準じた取組を検討

方針1－5 関連文化財群を構成する歴史文化遺産の保護

関連文化財群を整理し、笠岡市の歴史文化の特徴を多くの人に分かりやすく伝えられるようにとりまとめ、その価値を周知し歴史文化遺産の保護につなげる。

〈取組内容〉

- ・関連文化財群を構成する歴史文化遺産の保存と活用を検討

基本方針 2

歴史文化を効果的に活かす (歴史文化遺産の活用に関する基本方針)

各地区で受け継がれてきた歴史や文化を最大限に活かすために、関連文化財群やそのストーリーを活かしたまちづくりを進めることで、笠岡市の魅力の向上につなげていく。

笠岡市では、既に多様な市民団体が歴史文化に関する取組を行っていることから、笠岡市の歴史文化の魅力を市内外に発信するために、笠岡市の歴史文化をより身近に感じられるような体験型の行事を企画するなどし、その価値や魅力を伝える。さらに、歴史文化に対して多様な関わり方ができるような取組を検討する。

方針 2－1 歴史文化遺産の魅力向上の推進

笠岡市では、これまで歴史文化を活かした観光や地域振興の取組があるが、それらの魅力の向上を図っていく。

個別の歴史文化遺産の魅力を整理し、その回遊ルートを検討し、ガイドマップやパンフレットを作成するとともに、情報通信技術(ICT)を活用したガイドシステムの検討を行うなど、観光分野での歴史文化活用方法の充実を図る。また、人材育成の観点から、観光ガイドの支援・育成にも力を入れる。

市内各地区で行われている歴史文化遺産を活かした取組を、地域の魅力となるように、市内外に発信する。また、これまで歴史文化遺産として捉えられてこなかったものについても、歴史文化遺産として周知し、地域の魅力の向上のために活用を進める。

〈取組内容〉

- ・回遊ルートの検討
- ・ICTを活用したガイドシステム構築の検討
- ・ガイドマップやパンフレットの作成
- ・歴史文化遺産の公開の現状把握
- ・一般公開されていない歴史文化遺産の公開およびその方法の検討

方針 2－2 多様な媒体を通じた歴史文化ストーリーの発信とモデル地区の検討

笠岡市の歴史文化の魅力を発信するために、関連文化財群を語る歴史文化ストーリーを、ホームページやパンフレット、情報誌などを通じて市内外に広める。また、関連文化財群の構成歴史文化遺産のある場所で、その歴史文化遺産だけでなくそれを取り巻く環境も理解できるような仕組みも検討する。

歴史文化を活かしたまちづくりを推進し、市内全体にその取組を波及させるために、まずモデルとなる地域を設定して、積極的に歴史文化に関わる取組を推進する。

〈取組内容〉

- ・若い世代でも発信したくなるストーリーの構築
- ・モデル地区の設定の検討

方針2－3 歴史文化に関する情報発信(PR), 交流促進の充実

歴史文化を活かして地域の魅力を発信することで、笠岡市の認知度を高めて、市外から観光客などを呼び込むことで、地域の活性化を図る。また、地域住民と観光客との交流や体験のイベントを開催したり、マスメディアと連動した情報発信を行うなど、地域住民と多様な人たちが関係を築くことができる仕組み作りを検討する。

〈取組内容〉

- ・市民や市民団体、行政、専門家などが連携して、歴史文化遺産マップの作成や歴史ウォーク、市民講座の実施
- ・歴史文化を活かしたまちづくりに関するワークショップや講演会などの開催

方針2－4 歴史文化の学校教育、生涯学習への活用を推進

本構想において整理した歴史文化遺産や関連文化財群を、学校教育や生涯学習の場面で活用し、市民と歴史文化遺産の接点を積極的に増やし、歴史文化遺産を活用した学校教育・生涯学習の充実を図る。

将来を担う子どもたちを対象に、地域で歴史文化に関わる取組を行っている団体、地域の高齢者などに講師となってもらい、地域の歴史や文化を学ぶ機会を作る。そうしたことを通じて、世代間交流や活動主体間の連携を図ることができる環境を整える。歴史文化のストーリーを子どもたちにも分かりやすく伝え、子どもたちもそれを誰かに話したくなるような内容を目指し、更なる充実を図る。

〈取組内容〉

- ・学校教育と連動・連携した教材の作成
- ・歴史文化の授業での活用
- ・生涯学習と連携した講座や歴史ウォーク

方針2－5 様々な歴史文化遺産間のネットワークの整備

様々な歴史文化遺産が市内の広域に分布しており、徒歩だけで巡ることができる範囲で完結していないため、公共交通を中心に歴史文化遺産の間を結ぶ周遊ネットワークの拡充を図る。駅やバス停、港などの主要な交通機関と歴史文化遺産を結ぶルート等の整備を行うなど、歴史文化遺産を訪れたいと思えるような環境整備を進める。

〈取組内容〉

- ・周遊環境の整備を検討
- ・交通機関と歴史文化遺産間のルート整備

基本方針 3

歴史文化を守り、育み、活かすための基盤をつくる

(歴史文化遺産を保存・継承、活用する仕組みづくりに関する基本方針)

歴史文化を活かしたまちづくりを進めていくために、歴史文化の保存や活用に関わっている市民や市民団体、行政、専門家など、それぞれが主体的に役割を担い、ふるさとに対する愛着を深めながら歴史文化を活かしたまちづくりに取り組むことができるような仕組みや体制の構築を図る。また、歴史文化の保存、活用の担い手となる人材育成を推進する。

国や県、他市町村、関係機関との連携も図り、広域なつながりをもつ歴史文化遺産の保存や活用に向けた取組を進める。

方針3－1 保存・活用体制の構築、人材育成（継承）

歴史文化の保存・活用を進めていくために、市民や市民団体、行政、専門家など様々な主体が集まり、情報共有ができる場を設け、互いに刺激しあい、各主体間の連携及び協働の取組を推進する仕組みの構築を目指す。

また、歴史文化遺産を地域で保存、継承していくように、世代間の交流によって地域の歴史文化を調べたり学んだりする取組を通じて、後継者や担い手の育成を図る。

〈取組内容〉

- ・歴史文化遺産ガイドの養成
- ・市民参加型の歴史ウォーキング用マップ、歴史文化遺産マップづくりなどの実施
- ・各地域における伝統行事の調査や記録作成

方針3－2 歴史文化遺産を保存・活用していくための協働の仕組みや体制づくりの推進

歴史文化遺産の保存・活用に関わっている市民、市民団体、民間事業者、行政、専門家等の役割分担を整理し、各主体が協働して効果的な取組を展開するための体制や仕組みづくりを検討する。また、市役所の観光、都市計画、まちづくりなどの関係部局間の連携体制の強化を図る。

〈取組内容〉

- ・各主体の得意分野を活かした歴史文化に関する取組の実施
- ・市役所において、文化財と観光、都市計画、まちづくりなどの分野との連携体制の構築

方針3－3 市民や市民団体等の取組に対する顕彰制度の検討

地域で歴史文化を活かした取組を行っている個人や団体の中から、優れた活動を実施したり地域の魅力向上などに貢献している活動主体を選び、その功績を顕彰する制度を設けることを検討する。

〈取組内容〉

- ・顕彰制度の創設を検討

3 - 3 笠岡市の関連文化財群

(1) 関連文化財群とは

「関連文化財群」は、「有形・無形、指定・未指定にかかわらず様々な文化財を歴史的・地域的に関連性に基づき一定のまとまりとして捉えたもの」(『歴史文化基本構想』策定ハンドブック)と定義される。関連する複数の歴史文化遺産を関連文化財群として捉えることで、一体的に保存と活用をしていくことが可能になり、笠岡市の歴史文化遺産の魅力をさらに高め、かつ新たな価値を見いだすことにもつながると考えられる。

これまで、個別の歴史文化遺産ごとに保存と活用が図られてきた。これらがテーマやストーリー性をもった文化財群として結びつくことで新たな魅力が加わるとともに、広範囲に分布する歴史文化遺産にもつながりが生まれ、その周辺の環境も含めて総合的に保存・活用することが期待される。

関連文化財群は、市民が地域の歴史文化遺産に対してその価値を理解し、身近に感じ、そして保存と活用の取組の主体となっていくよう促すものであることが重要である。また、関連文化財群は、市民と行政が一体となって歴史文化を活用し、笠岡市の魅力を高めていくための資源と捉えられる。

(2) 関連文化財群の設定とストーリー

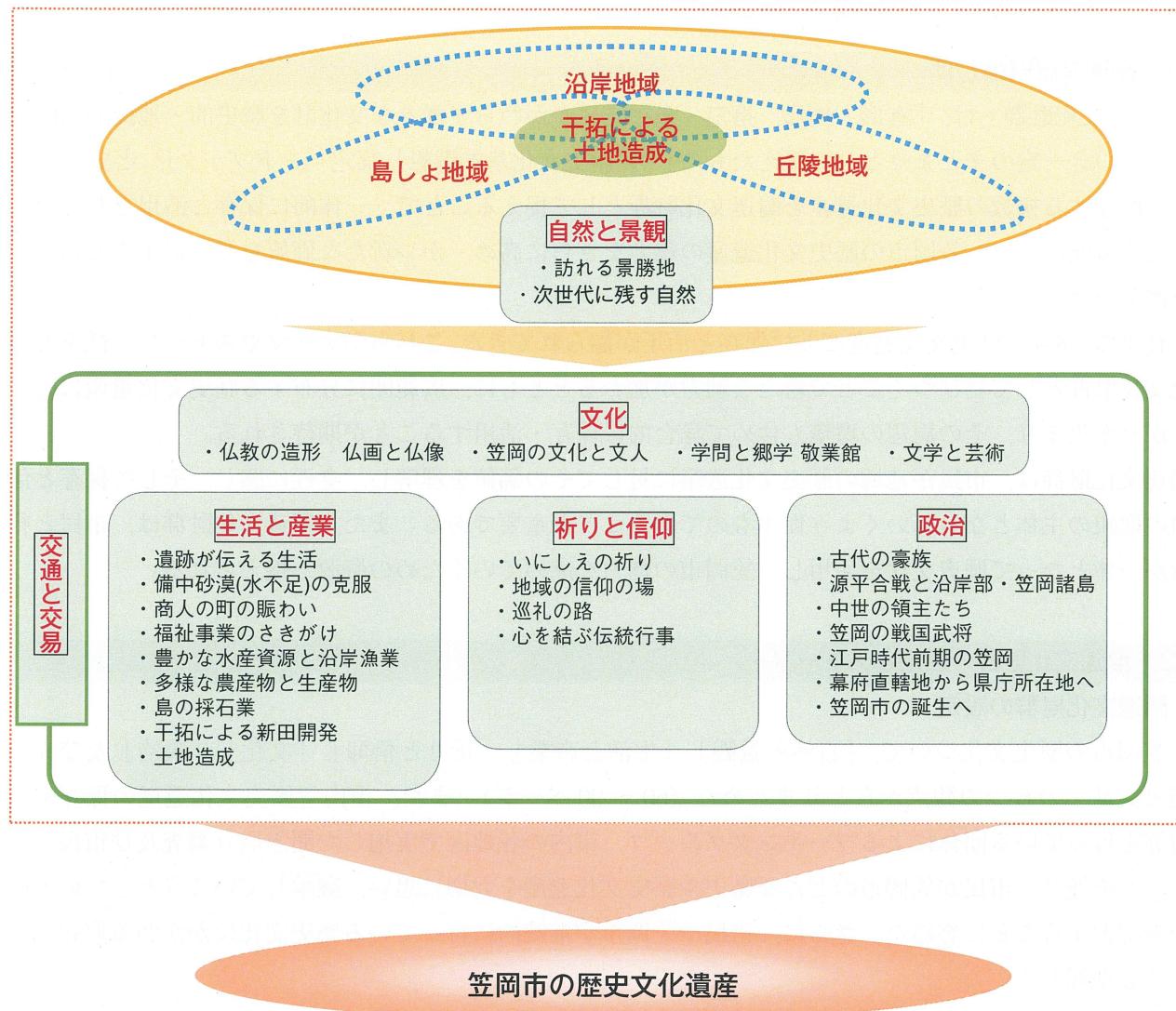
①関連文化財群の設定

笠岡市の歴史文化について、「自然と景観」、「生活と産業」、「祈りと信仰」、「文化」、「政治」及び「交通と交易」の6つの観点からとりまとめた(60～90ページ)。また、市内で歴史文化遺産の保存や活用等を行っている団体によるワーキンググループ、市内の各地区で実施した聞き取り調査及び市民アンケートを通じ、市民が笠岡市のどんな歴史や歴史文化遺産を大切に思い、継承していくこうとしているのかを把握することに努めた。さらに、市民や笠岡市が継続的に行っている歴史文化にかかわる取組についても把握した。

上記を踏まえ、笠岡市の歴史文化の特徴が分かりやすく伝わることや、これまでの保存・継承の取組などを考慮にいれながら、二つの大きな特色「海と生きる」と「受け継ぐ伝統と自然」に注目して、60～90ページの歴史文化の概要で示した歴史文化遺産の中から関連文化財群を設定した。関連文化財群の設定には、以下の点に配慮した。

- ・笠岡市がどのような歴史を培ってきたのかが分かるもの
- ・笠岡市の歴史文化の特徴や個性を端的に表すもの
- ・歴史的事実のみならず、保存と活用を意識し、現在そして将来の取組につながるもの
- ・地域の人たちが大切に継承してきたもの

■笠岡市の歴史文化と歴史文化遺産



笠岡市の歴史文化の土台となった自然、その中で「島しょ」「沿岸」「丘陵」の各地域で歴史が育まれた。それぞれの地域において「文化」「生活と産業」「祈りと信仰」「政治」が相互に関連しあい、さらに海陸を通じた「交通と交易」によって内と外からの影響を受けて歴史が展開し、そして歴史文化遺産が生まれ今日に至るまで残され、あるいは受け継がれてきた。そこから「海と生きる」と「伝統を受け継ぐ」という特色に注目し、関連文化財群を設定した。

②関連文化財群の概要

前述した「海と生きる」のもとに4つの、「受け継ぐ伝統と自然」ものとに2つの関連文化財群を設定した。

[特色1] 海と生きる

瀬戸内海に面し、大小30もの島々からなり、7つの有人島を持つ笠岡諸島。笠岡市の歴史文化を語る上で、「海」との関係を切り離すことはできない。内陸部に位置する地区においても、多かれ少なかれ海との関わりをもっている。海を介した交通と交易、人と人との交流は、各時代において町の形成、産業、政治、文化や信仰などに影響を与えてきた。海港と内陸部を結ぶ交通は周辺地域にも発展をもたらした。港町笠岡には文物が集まり、町は大いに栄えた。また、沿岸部に広がっていた遠浅の海は干拓や埋立により消滅したが、広大な土地を生み出し笠岡市の発展を支えた。

関連文化財群

- (1) 海の道と海への道
- (2) 港町 笠岡
- (3) 笠岡諸島の七つの島
- (4) 土地と水を求めて

[特色2] 受け継ぐ伝統と自然

笠岡市民は古くから受け継がれてきた伝統や自然を大切に守り続けている。例えば、市内外にも知られている祭礼から、小規模ながらも地元の人たちが楽しみにしている盆踊りなど、大切に継承されてきた伝統行事、地域住民の手で守られている信仰の場、今でも現役で活躍している近代化遺産の建物や古民家などである。こうした歴史文化遺産はもとより、それらを継承している地域の人たちも含めて笠岡市の財産と言うことができる。

瀬戸内海や笠岡諸島などの美しい景観や眺望、貴重な動植物とその生息環境は、先人たちが大切に守り育んできたものであり、市民の豊かな生活には欠かせない大切な歴史文化遺産である。こうした自然環境の保全は地域の人たちの手でなされており、必要不可欠な存在となっている。

関連文化財群

- (1) 伝統を受け継ぐ
- (2) 豊かな自然と美しい景観

③関連文化財群とストーリー

関連文化財群をストーリーとして結びつけ語ることによって、市民が理解しやすく、かつ笠岡市の歴史文化の魅力が伝わりやすくなり、効果的に保存・活用を図ることができる。さらに、関連性を整理することができ、周辺を含めた環境も保存・活用に結びつけていくことが可能になる。関連文化財群の「語り口」となるストーリーの作成にあたっては、笠岡市の特徴を表現し、市民のだれもがストーリーを語ることができ、保存と活用に活かすことができるよう配慮した。

したがって、117ページからのストーリーは、市民の歴史文化に対する関心を高め、関連文化財群を構成する歴史文化遺産の調査・研究や掘り起こし事業にも結びつけていく（基本方針1 108ページ）入り口となる。また、新たな文化財めぐりツアーや歴史ウォークの企画、歴史文化遺産マップの作成、学習教材の作成などへの活用（基本方針2 111ページ）、さらに、こうした取組への参加にも結びつけていく（基本方針3 112ページ）。

■笠岡市の歴史文化と関連文化財群

笠岡市の歴史文化 (59 ページ参照)

自然と景観

生活と産業

祈りと信仰

文化

政治

交通と交易

特色 1

海と生きる

特色 2

受け継ぐ
伝統と自然

関連文化財群設定におけるポイント

- 地域の人たちが大事にしている歴史文化への思い
- 次世代にも残したいもの
- 笠岡市の特徴を表現すること
- 笠岡市の魅力が伝わること
- 観光や教育などへの活用・地域での取組や活用

特色	関連文化財群	
海と生きる	(1) 海の道と海への道	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海の「潮違」 ・街道と海港の町 ・賑わいをもたらした道 — 鉄道と海港
	(2) 港町 笠岡	<ul style="list-style-type: none"> ・笠岡の町のはじまり ・港町の発展 ・商業の発展
	(3) 笠岡諸島の七つの島	<ul style="list-style-type: none"> ・瀬戸内海ど真ん中の島々 ・豊みと島の風景
	(4) 土地と水を求めて	<ul style="list-style-type: none"> ・豊穣の大地を造る ・大切な水
受け継ぐ 伝統と自然	(1) 伝統を受け継ぐ	<ul style="list-style-type: none"> ・心をつなぐ伝統行事 ・島の伝統行事 ・地域に根づく信仰 ・先人の遺産を受け継ぐ活動
	(2) 豊かな自然と美しい景観	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で育む自然 ・笠岡市の風景